

2018（平成30）年度上半期展覧会スケジュール



小杉放菴記念日光美術館において、2018（平成30）年度上半期に開催される展覧会の予定です。

小杉放菴記念日光美術館

4月2日～13日 展示替休館

2018年 4月14日[土]～6月24日[日]

毎週月曜日休館(祝日のときは開館し、その翌日を休館)

放菴、ものがたりを描く

◆未醒と名乗った青年時代から、洋画を学ぶ傍ら、日本や中国の故事を題材とした日本画や油彩画を描き、さらには漫画家や挿絵画家としても活躍していた小杉放菴にとって、「ものがたり」は生涯を通して描き続けた画題の一つでした。太平洋戦争終戦後になると、金太郎や花咲爺など、日本のおとぎ話の登場人物や、良寛や松尾芭蕉、大伴旅人などの実在した人物を描いた、いわゆる「日本的道釈人物画」へと画題が変化します。その理由としては、おとぎ話の登場人物や、日本の古きよき時代に活躍した人物を描くことによって、敗戦後の日本を明るくしようという放菴の「使命感」があったためと考えられます。このように、生涯を通して描かれた「ものがたり」の作品は、画家の人生と密接に関わった特別な作品群と言えます。そこで、本展では、放菴が青年時代から晩年にかけて描いた中国や日本の「ものがたり」を描いた油彩画・日本画の他、漫画や挿絵を列べ、画風の変遷を放菴自身の「物語観」の変化と共に追います。

6月25日～7月13日 施設メンテナンス休館

2018年 7月14日[土]～9月9日[日]

毎週月曜日休館(祝日のときは開館し、その翌日を休館)

創立99年 日本美術の精華 日本芸術院所蔵作品名品展

◆日本芸術院は、1907年に文部省美術展覧会（文展）開催のために設置された美術審査委員会を母体に、1919年に帝国美術院として創設されました。その後、帝国芸術院時代を経て、戦後の1947年に日本芸術院へ改称、芸術上の功績者のための我が国唯一の荣誉機関として現在に至っています。小杉放菴もまた、日本芸術院の会員でした。1935年、帝国美術院展（帝展）の改組にともない会員となった放菴は、いったん辞任しますが、1937年の帝国芸術院改組の際に再任命され、その後は1958年に辞任するまで、日本美術の将来のため、芸術院の活動に尽くしました。

まもなく創立から100年という歴史と伝統をもつ日本芸術院には、同院会員の作品をはじめ、日本芸術院賞を受賞した作品など、近現代の巨匠たちの作品が数多く所蔵されています。本展は、これら名品の数々から、小杉放菴と同時代に活躍した美術家たちの作品を中心にご紹介します。

9月10日～14日 展示替休館

2018年 9月15日[土]～11月11日[日]

毎週月曜日休館(祝日のときは開館し、その翌日を休館)

美人画の四季 培広庵コレクション展

◆日本画独特の一領域に、「美人画」があります。この言葉そのものは、大正期に徐々に確立されていったとされていますが、江戸時代に浮世絵として流行した「美人絵」からの流れにあり、時代ごとの空気をまといながら変化してきた世界でもあります。培広庵ばいこうあんコレクションは、優美で高品な上村松園や鍋木清方らの作品から、関西で活躍した北野恒富や島成園らに見られるデカダンスな雰囲気を感じた作品まで、明治から昭和にかけての変化をつぶさに眺めることのできる、日本有数の美人画コレクションです。また森川青坡や栃木県出身の小川雨虹など、優れた美人画を残しているながらその美作品を見る機会が少ない画家の作品が含まれることも特徴です。本展では、これらの作品の魅力を引き立てている、日本の四季や雪月花といった伝統美にも着目しながら、近代美人画の逸品をご紹介してまいりたいと思います。

美人を描けば美人画になるわけではありません。そもそも美人とは何なのか、ひいては人の美しさとは何なのか。そんなことを考える場を、この展覧会は与えてくれると期待しています。